

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601205
法人名	株式会社 さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑式番館 (ユニット名 2階)
所在地	久留米市江戸屋敷1丁目11番1号
自己評価作成日	令和3年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和3年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の介護理念とケア理念を毎日の朝礼時等で唱和し、ご利用者様主体のケアを行っています。毎日のレク活動においても介護度に応じて利用者様の沢山の笑顔を写真に収めています。また、ご家族様との面会もコロナ禍の状況に応じて、ズームやLINE電話、個室での面会等で行い、貴重な時間を過ごされてます。終末期におけるケアもご家族様や医療機関との連携を図りながら支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の介護理念「ケア理念」を朝礼時に唱和し、一人一人が利用者様主体のケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に一度の散髪日は訪問美容の方との会話を楽しみにされている。また、コロナ以前は、敬老の日には近隣の方々に紅白饅頭をご利用者様と職員と一緒に配りに行ったり、地域の祭りに参加する等で顔なじみの関係づくりを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター開催の認知症サポーター養成講座で講師を務めるとともに、他の事業所と共に意見交換会などにも参加し地域課題の掘り出し、地域に対して何ができるのかを模索している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より、運営推進会議の実開催は出来ないものの、書面にて運営の報告やヒヤリハット、事故報告など各方面へ報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人の代表者が久留米市介護福祉サービス事業者協議会の理事長を仰せつかっており、グループホームに限らず、久留米市内の事業所の実情、行政としての指導等、協力関係を築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を発足し、フロアの代表が参加し気になる点を話し合い、より良いケアができるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回は全職員対象の虐待防止の苑内研修や毎月のフロア会議においても意見交換を行いながら、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑の玄関に、成年後見人制度のパンフレットを置き、誰もが手に取れるようにしている。事業所に後見人が選任されているご利用者様がおられ、制度利用が必要だと思われるご利用者様には、ご説明を行うなど支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に見学、相談を重ね、納得して頂いたうえで入居して頂くようにしている。入居後も、面会時などにお話をする機会を設け、交流し相談がしやすい雰囲気づくりに努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で体調などに変化があった際にはお電話で、面会時には日ごろの様子をお伝えし、ケアプランの更新時期にはご家族の意見をお聞きし、反映するようにしている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング内でスタッフの意見を聞く機会を設け、管理者は運営会議で会社へ伝え意見を反映している。年1回全体会議を行い、スタッフからの直接の意見も聞けるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系、職能給基準を明確化した上で、管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め各職員がやりがい・向上心が持てるように配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては、国籍、性別、年齢は問わず人柄を重視している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内、社外での人権の研修に積極的に参加するように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人内研修を開催し、多くの職員が参加し、研修報告書を提出し、ミーティング内でも共有し、職員それぞれが事故の研鑽に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉事業者協議会の総会、その他の研修会などを通じ、他の事業所との交流に努めサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前から、ご利用者様がお困りなこと、不安なことや要望等を傾聴し、安心して生活して頂ける様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から、ご家族様がお困りなこと、不安なことや要望等をお聞きし、何かご家族様から意見があった際には、職員間で話し合い、解決出来るように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時にご利用者様・ご家族様の相談やご意見等を傾聴し、必要であれば他のサービスの紹介を行う等、対応を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様が出来ることややりたいことを尊重し、職員と一緒に取り組んでいる。苑を第二の家だと思って共に暮らして頂ける様に、より良い関係作りに取り組んでいる。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の少しの変化もご家族様に連絡を行い、ご家族様との面会時にはご利用者様の最近のご様子を職員が丁寧にお伝えすることを徹底し、より良い関係作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に外出されるご利用者様も居られる様に、ご利用者様が昔からの地域の顔なじみの方々との関係が継続出来るように支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフと一緒にレク活動等を行っている。ご利用者様同士のトラブル等がなく、楽しく交流が出来るように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様の退居後も相談等を受けた際は対応したり、年賀状をお送りするなど良好な関係を大切に支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、ご利用者様やご家族様のご意向や希望を伺いながら、出来る限り、ご希望に添える様に努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご利用者様の生活歴等、ご家族様、各関係者からも情報収集し、ご利用者様お一人お一人のこれまでの暮らしを把握出来るように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子観察を行い、必要な情報を記録に残し、現状の把握に努めている。また主治医からの指示等、個別ノートを活用し職員間での情報共有を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングにて、ご利用者様、ご家族様からお聞きした情報を報告し、職員間で情報共有し意見交換を行いながら、介護計画の作成に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の記録や申し送り等の情報を共有している。また職員間で情報の把握に努めながら、実践や介護計画に反映・見直しに努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族様の希望やご意向をその都度確認し、その時々々のニーズに出来る限り、応えられる様に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、外部との交流が困難な状況であったが、通常は地域とのつながりを大切に、地域の祭りなど交流の場に参加する機会を作っている。温かい環境の中で安心して過ごして頂ける様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族様が希望される医療機関をかかりつけ医として診察を受けて頂ける様にしている。主治医への状態報告、体調の変化時等は指示を受けて、適切な医療が受けられる様に支援し、その都度、ご家族様には報告を行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用様の健康管理について、看護職と介護職間で情報共有し、連携を図りながら状況に応じて看護師に相談・指示を仰ぎ対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院時には入院先の担当者に情報提供を行い、安心して治療が行える様にしている。また退院に向けて情報収集を行い、スムーズな退院に向けて病院関係者やご家族様との連携に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りについて、出来る限り、ご利用者様やご家族様のご意向に添えるように努め、早い段階で苑での方針を共有し、十分な説明を行い、必要時は同意を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロアにマニュアルを準備している。 急変時や事故の発生時など、直ぐに対応できるように職員間で情報を共有している。マニュアルを定期的に確認しながら、実践力が身が付くように努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の立ち合いや協力のもと、昼・夜の火災発生想定で避難訓練と年1回は水害時の避難訓練を実施している。今はコロナ禍にて、地域の方々の参加協力は控えているが、地域の		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員がご利用者様の尊重・プライバシーに配慮し、お一人お一人に敬意を込めた言葉かけや状況に応じた適切な対応ができる様に心がけている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で自己決定できる環境を作り、声かけを行っている。更衣の際は季節に応じた衣類を一緒に選んでいる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のご利用様の性格や行動を観察しながら、その方のペースを大切にしながら、居心地の良い環境で穏やかに過ごして頂ける様に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整髪や髭剃り、2ヶ月に1回の訪問美容を行っている。イベント時など、ご利用者様お一人お一人、おしゃれをし写真に収めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様、お一人お一人の好き嫌いを把握したり、食べる力によって食事形態を変えて提供する等、個別的な配慮を行っている。配膳のトレーを拭いたり、茶わん洗いの手伝いなど手伝って頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、ご利用者様の状態により、主治医からの指示で水分や食事量の調整を行いながら、栄養状態が良好に保てる様に支援している。主治医の指示のもと、最新の注意を払いながら対応を心掛けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、磨き残しや介助が必要なご利用者様は、職員が歯磨きの仕上げを行い、週1回は義歯の洗浄剤で保管している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、ご利用者様お一人お一人の排泄パターンを把握し、トイレの声かけや誘導、介助を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や乳製品を摂取して頂いている。主治医の指示のもと、排便コントロールを行い、解消しない時はその都度、主治医に相談し、薬の調整等で便秘の予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回入浴支援をしている。ご利用者様の入りたいタイミングでの入浴が困難な場合もあるが、出来るだけ対応できる様に配慮している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様が希望された時は居室で休んで頂き、会話やコミュニケーションをとりながら、安心して安眠や休息ができる様に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロアにご利用者様の服薬ファイルと服薬カレンダーは壁にかけており、服薬の際はダブルチェックを行う。ご利用者様お一人お一人の個別ノートを作り、症状の変化などを把握出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でご利用者様の生活歴をお聞きしながら、出来る事や好きなことを探り、その方の持っている力が活かせるように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の健康状態や天候等を見ながら、職員と一緒に個別で買い物に出かけたり、外出支援を行っている。現在は新型コロナウイルスの影響でご家族様との外出は控えて頂いている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりした医療費や買い物代等のお金は一括して事務所で管理し、その都度、ご利用者様に代わり、支払いを行っている。ご利用者様と一緒に買い物された際は、ご本人様より支払って頂くなどお金を扱う機会を支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様が希望される際は、電話の取次ぎを行い、ビデオ通話や日常の写真をご家族に送りするなど、ご家族様との交流を密に行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに壁飾りを作り季節感を感じて頂いている。またベランダから差し込む太陽光でリビングは明るく、適度な生活音の中で居心地良く、快適に過ごして頂ける様に空調管理を含め、環境整備に努めている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置して、独りや気の合うご利用者様や職員と会話を楽しめる居場所作りに努めている。またテーブルの配置もお一人お一人の相性を考慮し、居心地よい空間作りを心掛けている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族との写真やメッセージカード等を飾ったり、ご利用者様の使い慣れたタンス等を設置し、ご家族様と共にご利用者様が心安らげる居室作りを心掛けている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名前を書き、分かりやすくしている。ご利用者様の日常生活動作に応じた自立した生活が安全に送れる様に環境整備を行っている。		